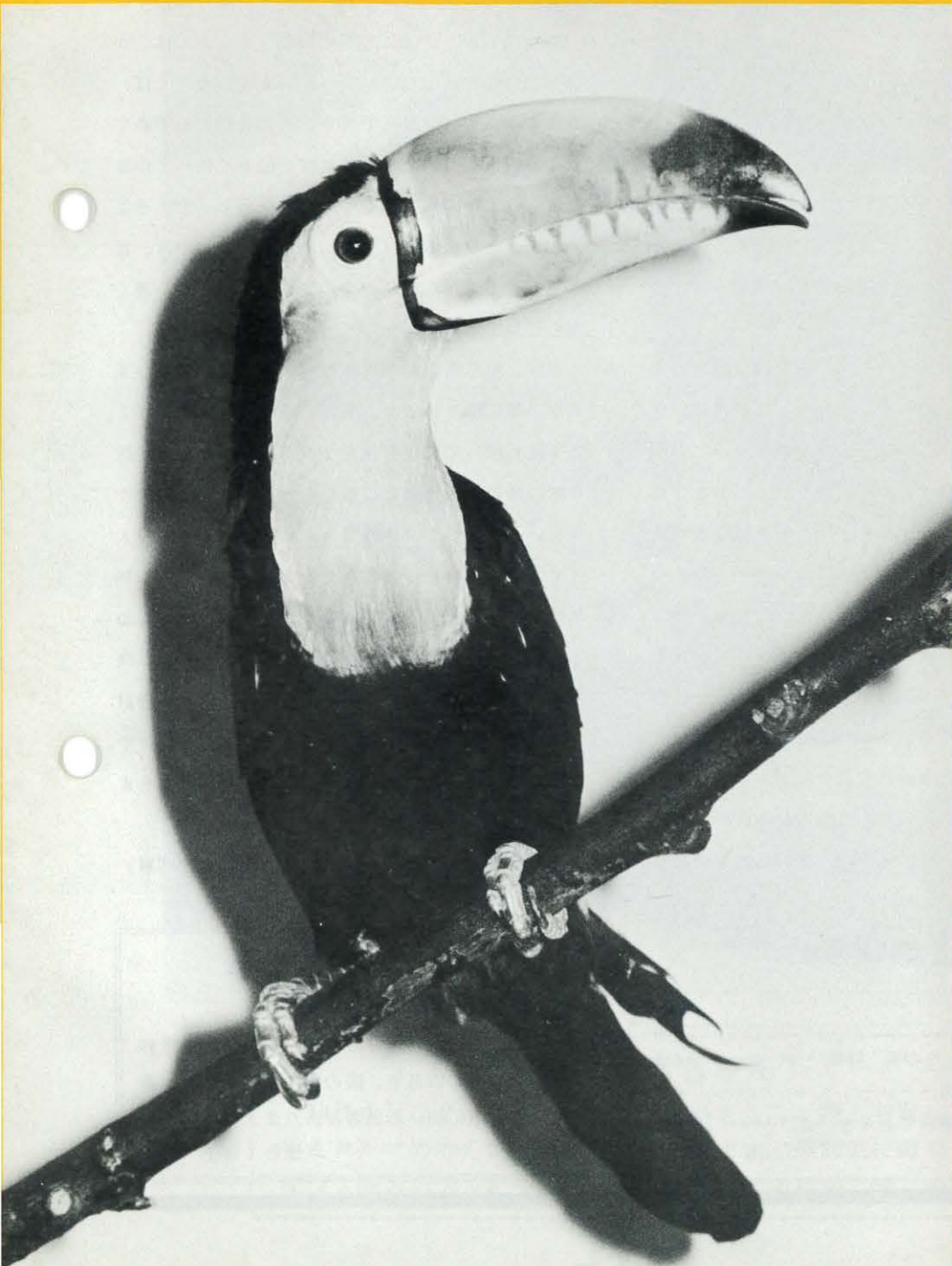


なきごえ



1978

12

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

桃谷好英

空飛ぶ鳥の折り紙

鳥の姿は
流れるよう
な美しい曲
線でできて
います。こ
れを折り紙
で表現する
のは、簡単



ではありません。なぜかという、紙を折ってできる線は直線になるから。そこで、目の錯覚を利用して、数本の直線のつらなりで曲線を近似することで形を作ることにしました。

さて、ウグイスとメジロのちがいを絵に画ける人が、どれくらい居られるでしょうか。たとえば、目のフチを白くするなどの細かいちがいを使って表現するのは、絵の上ではよいが、折り紙ではあまり都合のよいものではありません。比較的単純な表現をしたい折り紙では、細かい種の特徴をひとつひとつ表現すると、折り方が複雑になって、しかも、全体としての単純な美しさが消えてしまい勝ちになります。そこで、その仲間の鳥が共通にもっている特徴(科の通性)をとらえるようにしました。科の通性は、種を見わけるためには役立ちませんが、その科の系統進化的つながりを示している要素が多いので重要ですが、また、折り紙の鳥や絵に書いた鳥を何となくその鳥らしく見せるのに都合のよい形質です。鳥

なきごえ12月号目次

動物と私	2
ピューマの赤ちゃん	3
動物園グラフ“ことりの家”特集	4・5
動物園25年の思い出	6・7
ヨーロッパの動物園みてあるき ⑤	8・9・10
動物園ニュース	11

が好きで、鳥の名をたくさんおぼえておられる方は
区別点だけでなく、その鳥の仲間が共通にもって
いる形質を、動物園を通じて知っておかれると、も
っと鳥が好きになれるでしょう。

鳥の骨格標本を見たことのある人は、鳥の首が長
いことを知っていますが、羽毛におおわれた生きた
鳥では、首の長さはかくれています。誰の頭の中
にでも鳥のイメージは、実際の解剖学的な姿とは、
かなりかけはなれたものになっています。たとえば、
首の長いサギは、飛んでいるときには首をちぢめて
います。折り紙にしたときに首を短かく折って作
ると、たいていの人にはサギだとは見えません。そ
こで、私の折り紙の本(空飛ぶ鳥の折り紙)では、首
が長いままで飛んでいる姿の羽をつけたウソを書く
ことにしました。

さて、折り紙の鳥を飛ばせるには、もうひとつ工
夫が必要になりました。生きた鳥は、尾だけでなく、
首や足も使って安定を保ちながら飛んでいます。折
り紙の鳥には、ほんものよりも大きい尾をつけてや
らないと安定した滑空はできません。あまり尾を大
きく折ると本物からは離れてしまいます。一方、無
尾翼機は、一枚の大きい主翼だけで尾翼の役もかね
ています。静かな空気の中では安定を保ってよく飛
ぶような飛行機が作れます。折り紙の鳥でも、設計
上はこの無尾翼機と同じようなものが折れるわけで、
本物のように小さい尾をもった鳥の折り紙ができま
した。

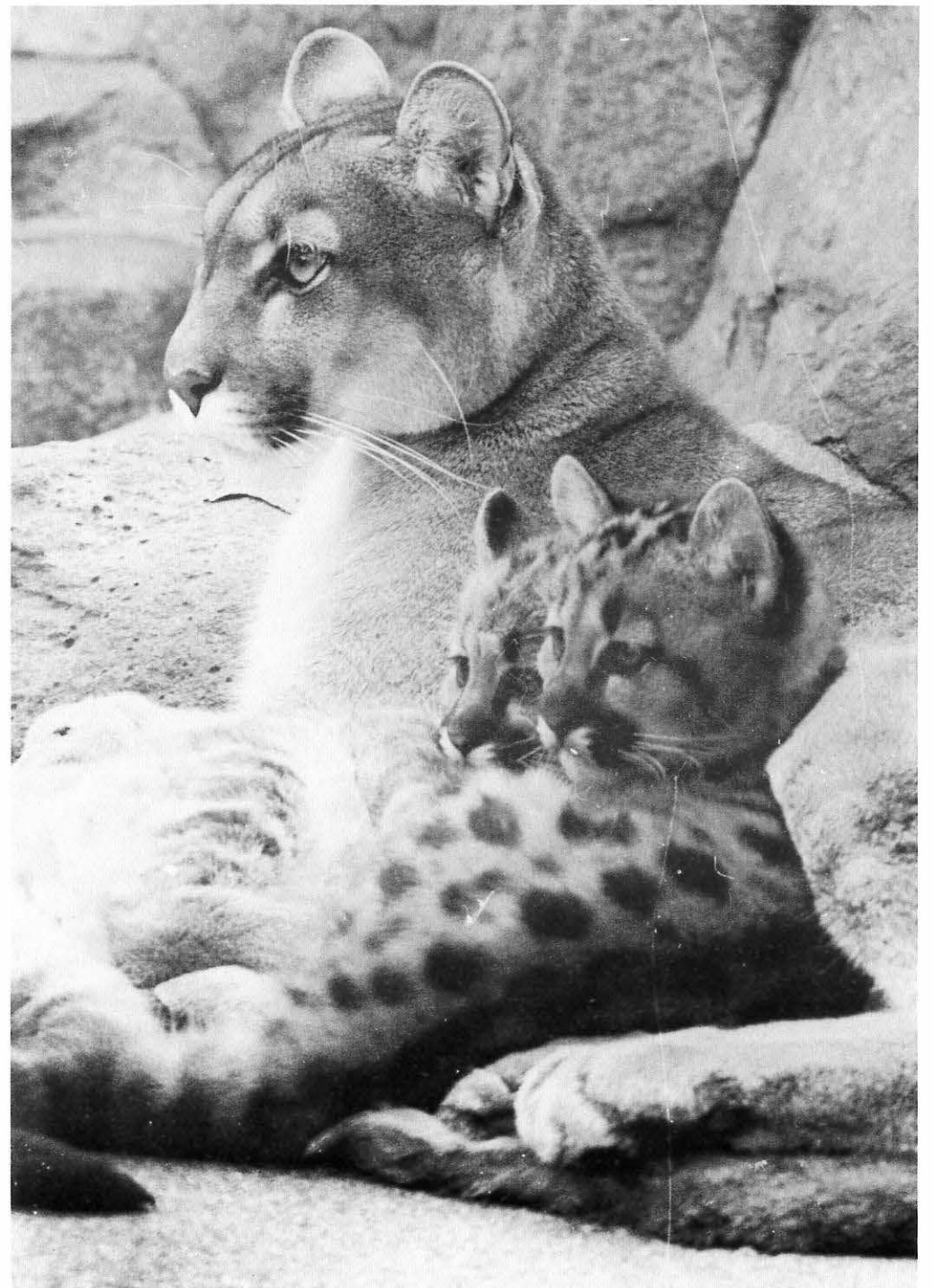
(大阪府立大学助教授・折り紙協会大阪支部理事)

表紙の写真説明

“サンショクキムネオオハシ”

新しくできた「ことりの家」でひとときわ色
やかなのがこの鳥で、眼の周囲が緑色、胸が黄
色、その下に細い赤色帯があります。

(撮影：宮下 実)



“ピューマの赤ちゃん”

10月4日に2頭の赤ちゃんが生まれました。親とちがって
生まれたての赤ん坊は体に斑点があります。無邪気に遊ぶ2
頭は入園者の方々に大好評です。(撮影：長瀬 健二郎)

動物園グラフ

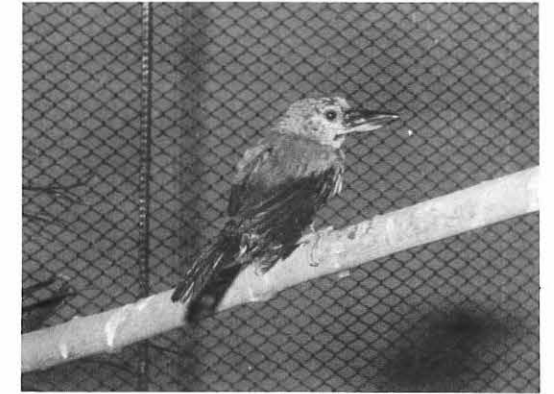
“ことりの家”特集

日本宝くじ協会から天王寺動物園に「宝くじの益金」による「ことりの家」が寄贈され、4ヶ月近い工事の後、さる11月4日開館しました。今回はこの新しい「ことりの家」の内容をグラフで紹介しましょう。(収容鳥類：36種78羽)
※カラーでお見せできないのが残念です。

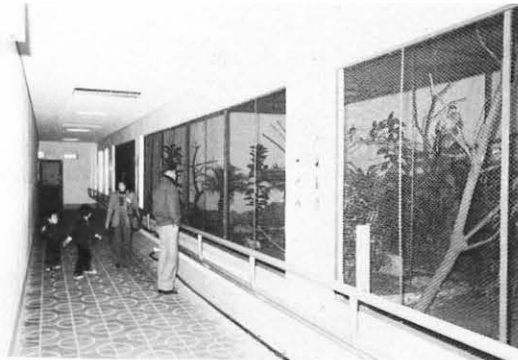
(撮影：大野 尊信・長瀬 健二郎)



ウスカクビタイヨウチョウ (分布：東南アジア)



ゴシキドリ (分布：東南アジア)

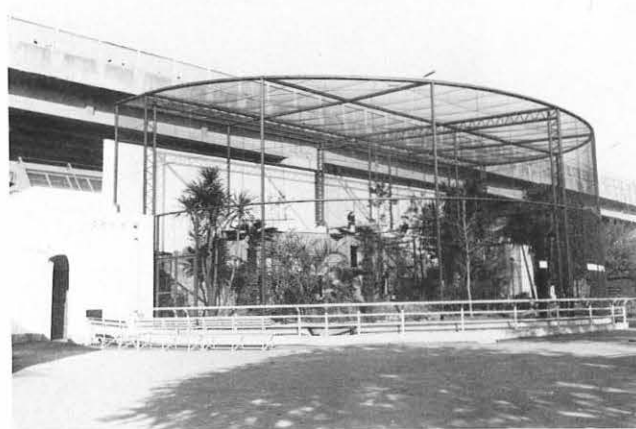


屋内観覧通路

内部は20～23℃に保たれ、外気とはエアーカーテンで遮断しています。



各種の熱帯産の鳥類が仲よく同居



「ことりの家」全景

面積 381㎡
室外のフライングケージには5種類のサイチョウ達が展示されています。



オオコノハドリ (分布：東南アジア)



左 ヌレバカケス (分布：中米)
右 テリムクドリ (分布：ブラジル)



ミドリカケス (分布：中南米)

10・11月の動物園日記

- 10/22. ジムグリが栄養不良のため死亡しました。シチメンチョウのメスがハムシをわかせていたので駆虫して、栄養剤を与えました。
23. 骨折したためギプスをしていたスプリングボックはだいぶ元気になり、ギプスをはずしてあげました。
25. エランドのメス親が左眼をケガしたので治療しました。
26. 夜9時前、キリンの仔が生まれました。今

- 度の仔はオスでした。
27. インドニシキヘビのメスが寄生虫症のため死亡しました。
28. シロカケイが元気をなくしていたので注射をしました。
29. 26日生まれのキリンは泰チャンと命名され元気いっぱい、スクスクと育っています。
30. フクロウのメスが寄生虫症のため死亡しました。今まで公開していなかったトカラウマのクロをシマウマ舎へ移動させました。

31. 前日シマウマ舎へ移動させたトカラウマのクロはすっかり落ち着き、シマウマ達との折合いも良いようです。
- 11/1. スペックルドキングスネークは体の数ヶ所を化膿させているので治療しました。
2. 類人猿舎の夜間暖房を開始しました。ツクシガモのメスが衰弱著しいため、入院させ治療を始めました。
3. 10月4日生まれのピューマの仔2頭を母親と一緒に始めて運動場に出しました。中国の上海西郊公園より贈られたコウノト

- リ一番が到着しました。
4. バードケージが完成し、オープンセレモニーが行われました。
5. ベイサオリックスのオスが左の前足と後足をケガしていたので治療しました。
6. チャイロカケイが元気をなくしているので治療を始めました。
7. 今年生れのタンチョウのヒナ2羽の検便をしたところ寄生虫が検出されましたので早速駆虫することにしました。

動物園25年の思い出

私が動物園に就職したのは昭和28年のことで、以来25年間、いろいろな動物と苦楽を共にしてきました。私が就職した当時は終戦後の混乱もやっとおさまりかけた頃で、動物園も丁度、復興期で、次々と動物舎の建設が始まり、それに伴ってゴリラ、シマウマ等の貴重な動物たちが入園してきました。

私は主として動物の台所である飼料管理を受け持つて来ましたが、不景気、インフレ、安定期と三つの景気の波を乗り越えてきました。その間、無我夢中で飼料の仕事に取りくんできました。飼料費も他園に比較して少なく、動物の栄養状態をそこなわな



飼料室で事務業務中

いよう、いかにして予算内で有効適切に使用するか四苦八苦したものです。昭和38年頃は動物の飼料給与量の割当が確立されていなかったため、納入された飼料が担当動物への可愛さの余り、より多く与えようと、使いすぎてしまわれるためトラブルが絶えませんでした。これを解消するために一日の飼料給与量の割当を作ることに専念しました。又、年度はじめに、予算に見合う1年間の飼料購入計画をたてたり、1頭羽当りの飼料給与量の算定、担当者別飼料給与表を作ったりするのが大変な仕事で、苦労したものです。

過去の恐乱物価の時は、飼料納入業者と契約したものの、納入不可能の状態に陥り途中契約辞退者が続出し、特に野菜の値段が激しく変動し、季節によっては品不足に陥るなど、飼料の確保には頭を痛めました。

丁度その頃、草食動物用に開発された固型飼料が市販され始めましたので、他の動物園に先がけて採用を検討しました。飼料会社と再三討議を繰り返し採用にふみきりましたが、採用前は、果たしてこの人工飼料で動物が順調に発育し出産するのかと心配したものです。



餌の調理の指導

採用前に山羊を実験動物として、この人工飼料を試食させたところ、特に動物の嗜好性に優れ、バランスのとれた栄養成分、ビタミン、ミネラル等を含むため、よく好食し、異常がなかったため他の草食動物にも給与してみることにしました。

すると、その心配をよそに、シカ、カバ、キリン、サイが相次いで出産しました。また、この飼料の使用により、動物の成長も早く、病気も減少し、その上、飼料費の節減にもなり、予算面で余裕ができて操作しやすくなりました。また、調理上の労力もかからなくなり、飼料の食べ残しも少なく合理的にな

りました。この新飼料への切換えに成功したのは、私の終生忘れることの出来ない思い出です。

飼料の確保に苦労したこともあります。その一つとしてキーウィの主食、ミミズがあります。

キーウィは、昭和45年の万国博覧会の記念にニュージーランド政府より2羽寄贈されたものですが、この鳥はニュージーランドの国鳥で、世界の動物園にも数羽しか飼育されていないという貴重な鳥で、翼が全く退化して飛べないこと、鳥には珍しく嗅覚が発達していること、などでも学問上興味のある鳥です。当園ではなんとか飼育を成功させようと、ミミズ確保に懸命になり、キーウィ入園と同時にミミズ増殖場を造りましたが、早急には間に合わないので、昭和47年まで毎日採取に近郊に出向きました。私もミミズ採取に大阪府の北端、能勢町まで出かけ、帰途雷雨にあい、びしょぬれで夜10時頃帰宅したことを思い出します。

また、寒さに向かうに従って、一段とミミズ確保がむずかしくなり、遂に市民の皆様呼びかけることになりました。遠くは、四国、九州より御恵送下さったおかげで、最悪期を切り抜けることができました。昭和48年頃からは、増殖場で自給できるようになりました。

しかし、1羽で400~500匹のミミズを採食する程の大食漢ですので、飼育担当者はミミズを採取するのに時間がかかり、また炎天下には日覆をしたり水をかけたりして、大変な苦労が2年間も続きました。

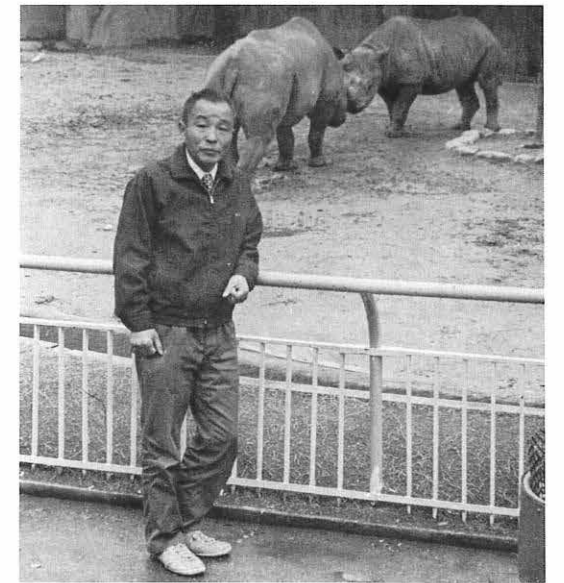
こうした苦労が実って、キーウィは現在も元気に飼育されています。飼育担当者の努力はもとより、市民の皆様方の動物に対する暖かい愛情と御協力が

あってこそ、あの急場をしのごうことができたものと感謝しております。

昭和50年頃より、世間でのミミズ熱が高まり各所でミミズ養殖の専門業者ができましたので、購入することにしました。おかげで長年の頭痛のタネであったミミズ確保も、業者からの安定した納入ということで、私の肩の荷もおりました。

思い出せば苦労話は尽きませんが、草食動物の固型飼料への切替への成功とキーウィのミミズ探しは、私の25年の動物園生活の中でも特に思い出として強く心に残るものです。

最後に動物園の益々の御発展をお祈り致しまして筆を止めます。



クロサイの前で

(前、飼育課獣医師：林 邦彦)

ヨーロッパの動物園みてあるき ⑤

§バーゼル→ベルン

バーゼル動物園を後にして駅に向かう頃から小雨模様になり、半袖シャツだけでは寒い位になりました。列車でスイスの首都ベルンに着いたのは6時近くで、バーゼル動物園から予約してもらった駅近くのホテルへ直行しました。寒さと空腹に耐えかねて、すぐにホテルの側のレストランへ行き、例によって飲んで食べて……それにしてもヨーロッパへ来てよく食べること！自分でも感心する位です。久しぶりにバス付の部屋をとり、バスにつかりながらたまに洗濯物を洗いました。ヨーロッパの生水はよくないのを承知で今まで飲んでいたのですが、健康？を考えて今夜はオレンジジュースを頼みました。しかし1ℓ入りのボトル1本、一晩で飲みほしたのは我ながらあきれてしまいました。

翌6月1日、バスでベルン動物園へ向かいました。動物園前で下車したものの動物園は見あたらず、附近は住宅街と深い森があるだけ。多分この森の中にあるのだろうと奥に進むと、まもなく暗い森の中に簡単な柵で囲ったシカの放飼場が見えてきました。

§ベルン動物園

この動物園は一部有料にして大半は無料観覧できるようになっていました。うっそうと茂る森の中に動物園があるため、動物舎への採光が気になりました。

事務所の手前のケージにはクロライチョウとオウシュウクロライチ



クロライチョウ

ヨウ各一番いが飼育されており、その特異な姿にしばし見とれました。事務所で来意を告げるとSaegasser 園長が迎えにあらわれ、さっそくビバリウムから案内していただきました。セリーマやエボシドリなどの鳥類の他にハ虫類、両生類、魚類まで展示してあり、わりと見やすく設計されていますが、換気不十分のためか臭気はかなり感じられました。園長の話では、この動物園は入園者も少く設備も立派なものはないが、ヨーロッパ産の動物飼育を一つの特色として出しているとのこと、確かに前述の2種のライチョウを始めヨーロッパユキウサギ、ヨーロッパヤマネコ、ヨーロッパオオヤマネコ、マーモット、ヨーロッパジェネットなど多数のヨーロッパ産の動物が目につきました。そのためか、ありふれたゾウやキリンなどは展示しておらず、入園者には物足りないだろうとのことでした。ジャコウウシやモウコノウマ、ヨーロッパバイソンなどの稀少動物も広い放飼場に飼



ビバリウム内部

育されており、ここの特徴として有蹄獣を収容する寝室を設けておらず、冬でも戸外で飼育することでした。ここで一番見たかった動物は現在すでに絶滅したものの、家畜種との混血を戻し交配し、淘汰と交配をくり返して純粋種に近いものを作りあげたオーロックス(原牛)とターバンで、完全に純血でないにしても今はもう現存しないものを復元した努力には目を見はらされます。オーロックスは牛の祖先ともいわれるもので、比較的特徴をよく伝えているオオツノウシとよく似た感じでした。ターバンは中央アジアの野生馬で、現在の馬がこれを家畜化したものといわれており、1919年に絶滅後、1936年より始まった戻し交配で作られられたもので、灰色の毛で包まれた優美な姿には何か不思議な魅力を感じました。深い森のため昼間でも園内は薄暗く、これらの大きな樹木のために動物舎の拡張、新設もままならないとのことでしたが、ワシミズク、ユキフクロウ、コミミズクなどにとっては良い環境で、繁殖も良好とのことでした。無料観覧区域にはライン川の支流に面した崖をうまく利用してシャモア、ムフロン、アイベックス、ドールシブなどの有蹄類が収容されていました。園内には随所に「食物を与えないで」というプレートが掲げられていましたが、さすがに観光国スイスの首都だけに外国人にも分かるようにというので、3ヶ国語及びイラストで示してあり、園長の話では非常に効果があるとのことでした。子ども動物園を見学し、レストランで一休みした後、園長の車で市の中心にあるペアピットという所に向かいました。ここは昔から市民に親しまれている熊公園とかで、直径30m、深さ10mほどの空堀の中に10頭ほどのヒグマが飼育されており、市民が手軽にクマと親しめる憩いの場といった所でした。

育されており、ここの特徴として有蹄獣を収容する寝室を設けておらず、冬でも戸外で飼育することでした。

ここで一番見たかった動物は現在すでに絶滅したものの、家畜種との混血を戻し交配し、淘汰と交配をくり返して純粋種に近いものを作りあげたオーロックス(原牛)とター



ヨーロッパユキウサギ

バンで、完全に純血でないにしても今はもう現存しないものを復元した努力には目を見はらされます。オーロックスは牛の祖先ともいわれるもので、比較的特徴をよく伝えているオオツノウシとよく似た感じ



ターバン

でした。ターバンは中央アジアの野生馬で、現在の馬がこれを家畜化したものといわれており、1919年に絶滅後、1936年より

始まった戻し交配で作られられたもので、灰色の毛で包まれた優美な姿には何か不思議な魅力を感じました。深い森のため昼間でも園内は薄暗く、これらの大きな樹木のために動物舎の拡張、新設もままならないとのことでしたが、ワシミズク、ユキフクロウ、コミミズクなどにとっては良い環境で、繁殖も良好



ドールシブ

とのことでした。無料観覧区域にはライン川の支流に面した崖をうまく利用してシャモア、ムフロン、アイベックス、ドールシブなどの有蹄類が収容されていました。園内には随所に「食物を与えないで」というプレートが掲げられていましたが、さすがに観光国スイスの首都だけに外国人にも分かるようにというので、3ヶ国語及びイラストで示してあり、園長の話では非常に効果があるとのことでした。

子ども動物園を見学し、レストランで一休みした後、園長の車で市の中心にあるペアピットという所に向かいました。ここは昔から市民に親しまれている熊公園とかで、直径30m、深さ10mほどの空堀の中に10頭ほどのヒグマが飼育されており、市民が手軽にクマと親しめる憩いの場といった所でした。

Saegasser 園長にここで案内の礼をのべて別れ、駅へ向かいました。

§ベルン→パリ

明日のパリ行の飛行機がジュネーブ発のためベルンより列車にてジュネーブに向かい、3時すぎに着、ホテルを見つけて荷物を置き、残り少ないヨーロッパ旅行の見おさめと市内の散歩に出ましたが、いたる所で日本人観光客を見かけ、いきさか閉口しました。スイス最大の湖、レマン湖のほとりで疲れた頭をいやし、明日のパリでの2つの動物園見学のための英気を養いました。

翌6月2日、ジュネーブ空港より飛行機でパリへと向かい、10時前にドゴール空港へ到着、案内所で紹介してもらったホテルに落ち着くのもどかしく地図を片手にパンサンヌのパリ動物園へと向かいました。メトロを乗りついで目ざす動物園近くで下車しましたが、歩けども歩けども動物園は見あたらず、途中3回も警官に道をたずねたのに全てフランス語で答えてくれるので、ますます道が分からなくなり、動物園に着くのに30分もかかってしまいました。

§パリ動物園

門で案内をこうと又々フランス語でしか答えてくれず、英語とフランス語のチンプンカンプンなやり取りの後、とうとう通じないまま園内を一人で見学するはめになりました。それにしてもフランス人は英語を解してもフランス語以外はしゃべらないとは聞いていたものの、あまりの頑固さに驚かされました。(私が日本を出発した後でパリ動物園より私の来訪承知の旨の手紙が届き、それに連絡先が書いてあったのですが……)

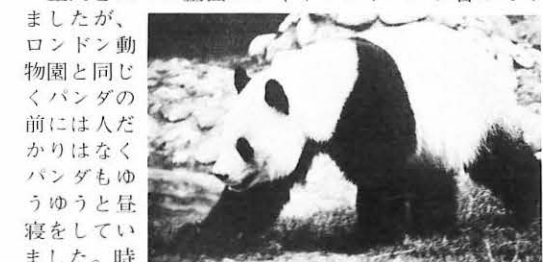
この動物園は国立で、面積17ha、哺乳類102種、鳥類150種を収容しており、ほとんどが無柵放養式



統一された凝岩の動物舎

で飼育されており、動物が非常に見やすく設計されています。又、動物舎は全て同一の凝岩で形造られているのも特徴の一つといえるでしょう。

正門を入った正面にジャイアントパンダ舎があり



ジャイアントパンダ

ましたが、ロンドン動物園と同じくパンダの前には人だかりはなくパンダもゆうゆうと昼寝をしていました。時折通る子供

達がパンダの前で歓声をあげる程度で、まことにあうけらんとしたものでした。ボンゴやオカピなどの珍獣もわりと広い放飼場で飼育されており、放飼場の緑地帯と統一された灰色

の凝岩がうまく調和しており、造園技術がうまく生

かされてきました。又、放飼場内の樹木が動物からの保護のために樹木の周囲を細い丸太で囲んであるのもしやれた感じでした。



オカピの放飼場

ただこの動物園で気になったことは動物のネームプレートが小さく、しかも観覧側からかなり隔った所に付けてあるものが多いため、私の正常な視力？をもってしても読めないものがほとんどでした。又、雑居させているものも絵入りのプレートが少ないため、入園者にしてみれば動物の名前が分からない恐れがありました。もう一つ気になったことは入園者が動物に餌をよく与えていることで、他の動物園ではあまり見かけなかっただけにうけい目につきました。

園内の端に30mほどの巨大な凝岩の山がそびえ立ち、この急斜面をパーバリーシブ、アイベックスがかけ回っており、実に壮観でした。この人工山の中にはエレベーターも備えられ、エッフェル塔と並ぶパリのシンボル塔の一つでした。途中から小雨が降りだしましたが構わず園内をまわり、ヤマバク、



ヤマバク

コーブ、シロエンピコウなど初めて見る動物も、その特徴などをゆっくり見学でき非常に満足でした。ただ先ほど



コーブ

も述べた動物のネームプレートの不備、入園者のモラルなどの動物園での教育指導面の点をたずねられなかったこと、動物園のスタッフに伺いできなかったことなど心残りのまま、動物園を後にしました。

小雨の中を次の目的地ジャルダン・デ・ブランテ動物園へ向かいました。メトロを2回乗り換え地図を片手に道をたずねたずね——といってもフランス語でしか答えてくれないのですが——3時半にどうにか同じパリ市内にあるもう一つの動物園に到着することができました。

§ ジャルダン・デ・ブランテ動物園

この動物園は国立自然科学博物館の施設の一つで、1793年開園と現存する動物園の中でも三番目に古い長い歴史のある動物園です。そもそも1626年に王室の葉草園として始まり、一般に非公開でメナジュリーと呼ばれる動物施設だったのですが、フランス革命により1793年、一般に開放され、1934年にパンサンヌのバリ動物園が開かれるまで市民の憩いの場として親しまれてきました。

門では案の定、話が通じず、バリ動物園と同じく無料で入園させていただいたものの、一人で園内を見学することになりました。まず初めに驚かされたことは、今まで見学した12のヨーロッパの動物園に比べ旧態依然の飼育展示が続いていることでした。この動物園をぜひ見学したかった理由は、18世紀に



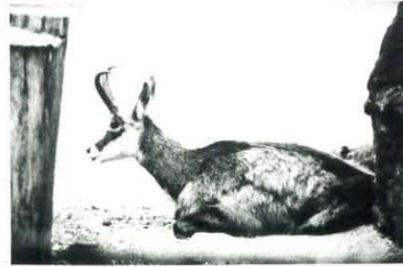
頑丈な柵のモウコノウマ放飼場

動物舎など、200年ほど前の創立時の姿が今日までなお残っていました。動物舎全体のイメージも暗く汚く、場所によってはかなりの臭気も感じられ、現在大はやりの無柵放飼式はなく、檻飼いや、柵飼いはばかりですが、最新の設備を整えた動物園を見学することも必要ですが、古式豊かな動物園を見学しておくことも何か参考になると思います。雨もあがった曇り空のもと、閉園まで園内をくまなく見て回りました。

ビッグホーン、パーラル、マーコール、アイベックス、シャモアなど有蹄獣も多く飼われていますが、ただ柵内の平地にいたるだけという感じで、他の動物園のように凝岩で



マーコール



シャモア

いで壁もはげ落ち、動物舎も今にもくずれ落ちそうなものもありました。ここで一番大きな建物は赤レ

ンガ造りの円型の猛獣館で、外側周囲が運動場で内部に入ると高い天井のドーム式になっており、周囲に寝室が並んでいま



珍鳥 カグー

す。換気設備がないためか高い天井にもかかわらず、内部に足を踏み入れた時の臭気は動物の臭いに慣れたはずの私にもかなり強烈でした。



古風な猛獣館

たにもかかわらず極端に少く、子供の姿もあまり見かけませんでした。ただ私自身にしてみればバリ動物園よりこちらの方が気に入りました。幼い頃連れて行ってもらった当時の日本の動物園のイメージが記憶のすみに思いおこされたのかもしれませんが、これほど身近に動物が見れ動物の臭いをかぎ……広い放飼場に点となって見える動物、人工的に飾りたて臭いもなく、動物と人間が隔てられた感じになってしまった現在の動物園に対する私自身の物たりなさでしょうか。今までの動物園は一動物園人として見学に夢中でしたが、ここで初めて遠い昔の？私の心にあった動物園にめぐり会えたような気がしました。しかしここでの動物の飼育、展示、繁殖等に関しては決して良い状態でないことは、動物園人としての私も認識していますが…

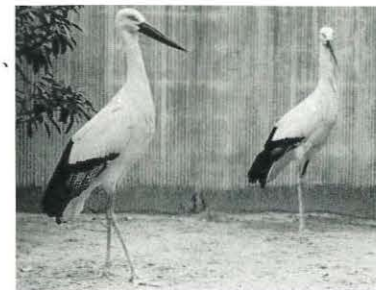
6時の閉園後、守衛の人に追い出されるまで、心にこの動物園を焼きつけておこうと、休憩もとらず何回も園内を見て回りました。次に訪れる機会までこのままの状態が続いてくれることを願いながら動物園を後にしました。

(完)

(飼育課：宮下 実)

§ コウノトリ入園

11月3日夜、中国の上海市西郊公園から贈られたコウノトリ一番が到着しました。このコウノトリは以前から当園に居るヨーロッパコウノトリとは別の種類で、昔から日本に住み、最近絶滅しそうになっているニホンコウノトリと同じ種類です。ニホンコウノトリは時々中国大陸から渡ってくるものがあるだけで、以前から日本に住んでいたニホンコウノトリは現在野外には1羽もいなくなってしまいました。また、飼育下でも繁殖した例はありません。なんとか繁殖に成功させ、将来日本の空をニホンコウノトリが再び飛び交うようにしたいものだと考えています。



また11月10日には西郊公園の園長さん以下4名の中国からのお客さんが来園され、盛大なコウノトリの受領式が行われました。

このコウノトリは以前から当園に居るヨーロッパコウノトリとは別の種類で、昔から日本に住み、最近絶滅しそうになっているニホンコウノトリと同じ種類です。ニホンコウノトリは時々中国大陸から渡ってくるものがあるだけで、以前から日本に住んでいたニホンコウノトリは現在野外には1羽もいなくなってしまいました。また、飼育下でも繁殖した例はありません。なんとか繁殖に成功させ、将来日本の空をニホンコウノトリが再び飛び交うようにしたいものだと考えています。

§ ことりの家完成

日本宝クジ協会からの益金によって建設が進められていたことりの家が11月3日完成し、11月4日盛大なオープンセレモニーが行われました。



このことりの家には以前小鳥舎で飼われていたオウム類やエボシドリ

の他に新たに入園したサンバード、サンショクキムネオオハシ、ゴシキドリなど、36種、約78羽の鳥達が収容されています。

だんだん寒くなってきましたが、ことりの家は暖房設備も完全で、鳥達は元気に飛び廻っています。一度是非御覧下さい。

§ ボランティアーズ活動

10月15日に始まった秋の動物園まつりは11月12日で終了しましたが、その間、



くらしを彩るショッピング



近鉄百貨店

アベノ店 (06) 624-1111・上本町店 (06) 779-1231
東京近鉄 (0422) 21-3331

・近鉄百貨店グループ

大阪(アベノ・上本町)・東大阪・奈良・京都・岐阜
枚方・四日市・和歌山・徳山・別府・東京(吉祥寺)

§ ジャルダン・デ・プランテ動物園

この動物園は国立自然科学博物館の施設の一つで、1793年開園と現存する動物園の中でも三番目に古い長い歴史のある動物園です。そもそも1626年に王室の薬草園として始まり、一般に非公開でメナジュリーと呼ばれる動物施設だったのですが、フランス革命により1793年、一般に開放され、1934年にパンサンヌのバリ動物園が開かれるまで市民の憩いの場として親しまれてきました。

門では案の定、話が通じず、バリ動物園と同じく無料で入園させていただいたものの、一人で園内を見学することになりました。まず初めに驚かされたことは、今まで見学した12のヨーロッパの動物園に比べ旧態依然の飼育展示が続いていることでした。この動物園をぜひ見学したかった理由は、18世紀に



頑丈な柵のモウコノウマ放飼場

動物舎など、200年ほど前の創立時の姿が今日までなお残っていました。動物舎全体のイメージも暗く汚く、場所によってはかなりの臭気も感じられ、現

設立された当時の動物園の姿を見たかったからで、古くさびついた頑丈な人止柵で囲まれた放飼場、檻のさびついた薄暗い

ンガ造りの円型の猛獣館で、外側周囲が運動場で内部に入ると高い天井のドーム式になっており、周囲に寝室が並んでいま



珍鳥 カグー

す。換気設備がないため高い天井にもかかわらず、内部に足を踏み入れた時の臭気は動物の臭いに慣れたはずの私にもかなり強烈でした。



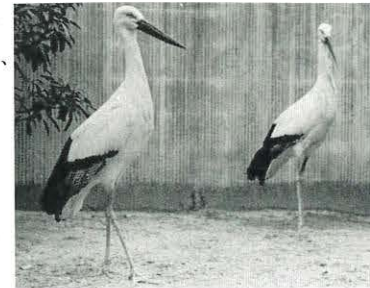
古風な猛獣館

たにもかかわらず極端に少く、子供の姿もあまり見かけませんでした。ただ私自身にしてみればバリ動物園よりこちらの方が気に入りました。幼い頃連れて行ってもらった当時の日本の動物園のイメージが

動物園全体が古く、暗く、汚いというイメージからか、新しく明るく美しいというバリ動物園に比べ入園者は同じ日に訪れた

§ コウノトリ入園

11月3日夜、中国の上海市西郊公園から贈られたコウノトリ一番が到着しました。このコウノトリは以前から当園に居るヨーロッパコウノトリとは別の種類で、昔から日本に住み、最近絶滅しそうになっているニホンコウノトリと同じ種類です。ニホンコウノトリは時々中国大陸から渡ってくるものがあるだけで、以前から日本に住んでいたニホンコウノトリは現在野外には1羽もいなくなっていました。また、飼育下でも繁殖した例はありません。なんとか繁殖に成功させ、将来日本の空をニホンコウノトリが再び飛び交うようにしたいものだと考えています。



また11月10日には西郊公園の園長さん以下4名の中国からのお客さんが来園され、盛大なコウノトリの受領式が行われました。

§ チャムネシャクケイ入園

11月17日、チャムネシャクケイ一番が寄贈されました。この鳥は南アメリカに住むキジの仲間



で、コロンビア、エクアドル、ボリビアなどに分布しています。日本の動物園では横浜の野毛山動物園と当園の2ヶ所で各一番ずつしか飼われていない、とても珍しい鳥です。来年春の繁殖シーズンには是非繁殖に成功させたいと思っています。

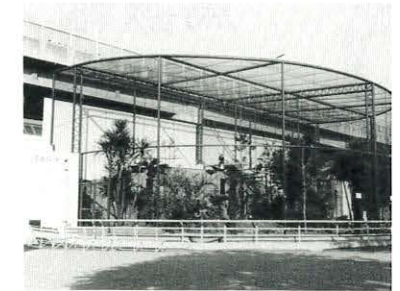
§ トラ出産

10月17日、トラが出産しました。性別は確認できていませんが、2頭の子供で元気にスクスクと大きくなっています。



§ ことりの家完成

日本宝クジ協会からの益金によって建設が進められていたことりの家が11月3日完成し、11月4日盛大なオープンセレモニーが行われました。



このことりの家には以前小鳥舎で飼われていたオウム類やエボシドリその他に新たに入園したサンバード、サンショクキムネオオハシ、ゴシキドリなど、36種、約78羽の鳥達が収容されています。

だんだん寒くなってきましたが、ことりの家は暖房設備も完全で、鳥達は元気に飛び廻っています。一度是非御覧下さい。

§ ボランティア活動

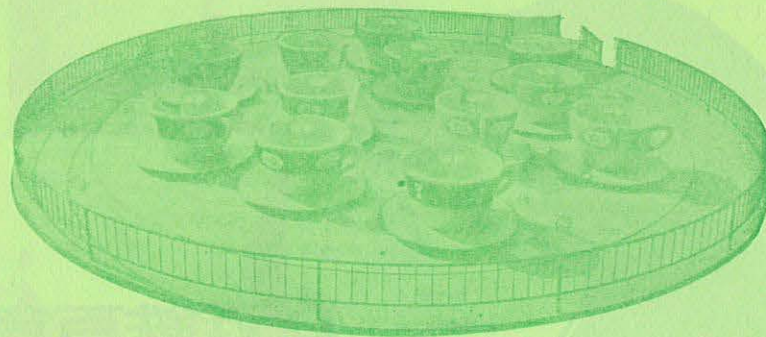
10月15日に始まった秋の動物園まつりは11月12日で終了しましたが、その間、日曜祭日にボランティアの方々が各動物舎の前に立って動物の説明などのガイドをしてくださいました。なかなかの盛況で、いつもボランティアの回りには人垣ができたほどでした。



休園日のお知らせ

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。来年1月までの休園日は下記の通りです。
12月18日、12月29日から1月1日、(年末年始)、
1月16日(火)
開園時間は9時半～4時半で、4時に切符売止めになります。

遊園施設委託経営・製作・販売



久竹娯楽株式会社

本社工場 大阪市西区北堀江御池通2-100
電話 大阪(06)541-3112・3938番

なきごえ 昭和53年12月15日発行(毎月1回15日発行)

編集/大阪市天王寺動物園

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共)

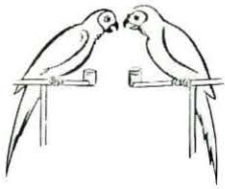
第14巻第12号(通巻160号)

〒543 大阪市天王寺区玉水町2

電話 大阪 (06)771-0201

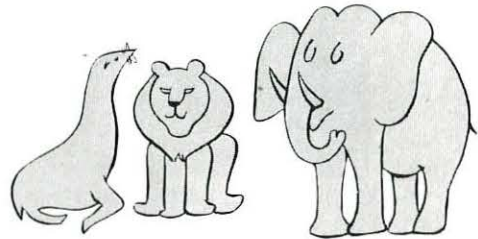
振替口座 大阪 37823

1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達



- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円

有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517

飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 板野 健一・前木 妙子・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三・農本 武志
石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦・仲谷 登